

コーヒーの広がり

卒業設計・制作プロジェクト
201711057 坂上菜々子
指導教員 飯野 秋成

1. はじめに

ものづくりをする上でどの分野にも共通して、世の中にはこんなものがあったらもっと良くなるだろうと想像力を膨らますことから始まっている。工学ゼミ6の活動は直接的には建築とは繋がらなくても、何の制約にも縛られず自由に表現するという点で最初には相応しい課題を行った。

2. 目的

「どのような方法でもいいからコーヒーについて自分なりに表現してみよう」というテーマで活動を進めた。私がコーヒーと聞いてまず連想したものは苦い感覚的なイメージだった。そこで人間が感じる味覚、嗅覚をどうやって表現しようか考えた時、そのまま想像を絵という形に落とし込む方法に至った。この活動では、感じたことを自分なりに解釈して形にすることを目的として進めた。

3. 方法

- ①コーヒーから思い浮かんだことをマインドマップで書き出す。
- ②書き出したものから描きたいものを絞り、ラフスケッチをする。
- ③何個かの要素を組み合わせることで絵で表現する。
- ④表現力を上げるための工夫をする。

○用いた道具

画用紙、鉛筆、消しゴム、色鉛筆、マニキュア

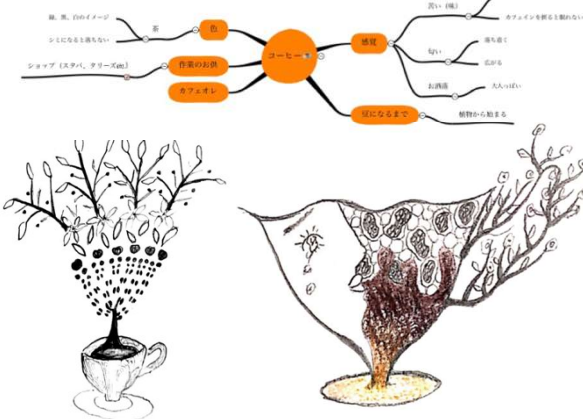


図1:方法①、②

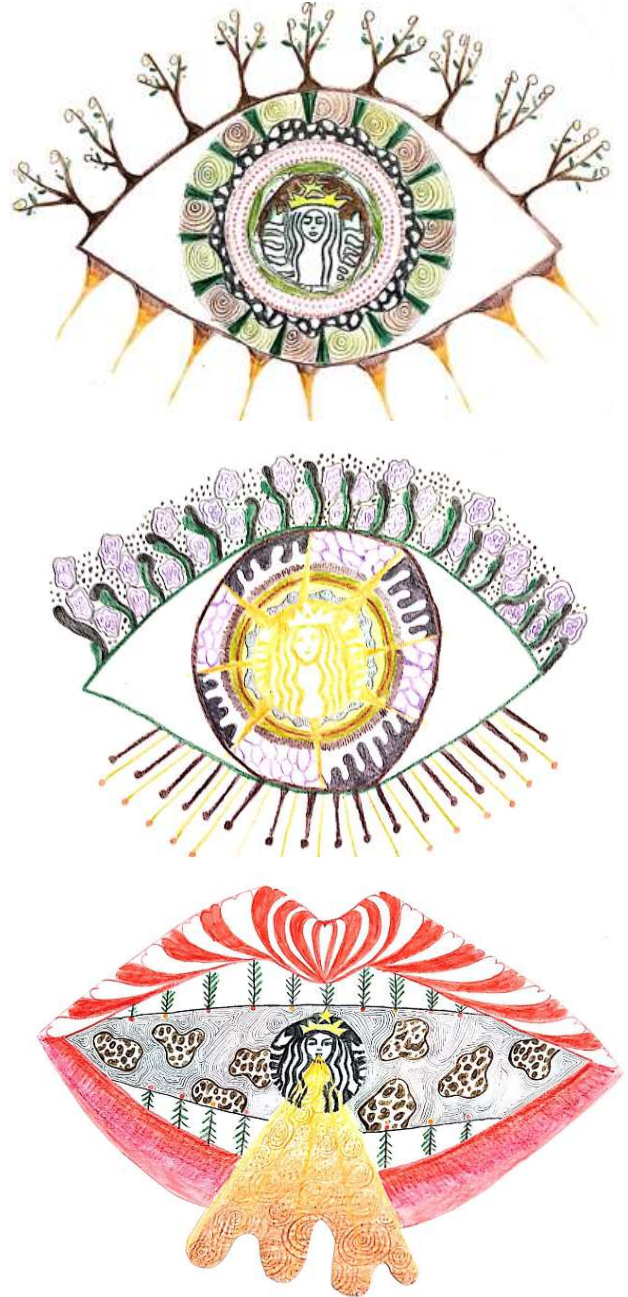


図2: コーヒーの感覚的な表現

4. 工夫した点

コーヒーにはブラック、カフェオレ、微糖などさまざまな種類があるが、中でもカフェオレの微妙な色合いのグラデーション表現や、砂糖の光沢を材料で工夫した。感覚的部分を目や口といったパーツと組み合わせることによってコーヒーのイメージが湧きやすくなった。